



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1970, 25

ISSUE DATE:

1970-03

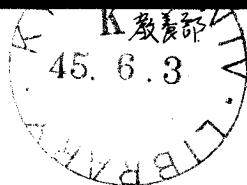
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/135037>

RIGHT:

英文學評論

第 XXV 集



『マクベス』

——存在と時間—— 岡 田 洋 一

ドライデンの一つの見方

——叙事詩と諷刺詩との関係—— 山 村 武 雄

‘Glee’・「歓び(の歌)」という言葉の復活について(その一)

——ブレイクの『無垢の歌』の場合—— 松 下 千 吉

エマソンの『神学部講演』にたいするブラウンスンの批判について

——『神学部講演』はこの批判にたえられるか—— 尾 形 敏 彦

The Novelist's Predicament Today John Noone

京都大学教養部英語教室

目次

『マクベス』

——存在と時間——……………岡田 洋 一……………(一)

ドライデンの二つの見方

——叙事詩と諷刺詩の關係——……………山村 武雄……………(一六)

‘Glee’・「歓び(の歌)」という言葉の復活について(その一)

——ブレイクの『無垢の歌』の場合——……………松下 千吉……………(四五)

エマスの『神学部講演』にたいするブラウンスンの批判について

——『神学部講演』はこの批判にたえられるか——……………尾形 敏彦……………(七三)

The Novelist's Predicament Today……………John Noone……………(一)

あとがき

昭和四十四年度はバリケード封鎖されたキャンパス内の授業から始まった。授業は一部暴力学生の妨害で、一週間ともたなかった。単位とは無関係の特別授業や自主講座がそれに代った。これも、遠からず立消えの運命となった。夏の暑気が訪づれるころ、研究室事務室の多くは一部学生等のねぐらと化し、臭気の発散する荒唐学舎のなかを、われわれは安全地帯を求めて転々と逃亡を続けた。解決を模索する会議が日夜頻繁にもたれたが、それも再三学生の襲撃をうけ「団交」監禁軟禁が日常化しリンチをうける教官も現れた。教官の多くは、精神的肉体的に病状を訴えた。八月には新制度が発足し、助手・教務職員を含む二〇〇名に垂んとする大衆教授会が誕生した。九月末には機動隊の手で封鎖が解除され、授業再開が強行された。授業はさまざまの障害にぶつかりながら、徐々に正常化への方向を目ざして今日に至った。まだまだ学生の動きは流動的だし、カリキュラムや制度の改変をめぐる、なお混乱や動揺が四十五年度にまで持ちこまれる形勢となった。

この一年、当教室内の動きも慌しかった。……八月末、奥村透助教授の帰任。十月、寺田建比古教授の神戸大文学部への転出。永野芳郎・青木啓治両助教授の着任。本年四月、川田周雄教授の甲南大文学部へ、同五月、山内邦臣教授の奈良女子大文学部へのそれぞれの転出。……教室にとっても未曾有の変動だったが、それが偶然の現象か、紛争に触発された必然の結果だったかは、歴史のあかしをまっぴろげない。

本誌が年二回でるべくして、ただの一回、それも今頃でることになったいきさつについては、多くを語る必要がなからう。労作を寄せられた諸先生方のご厚意を、ただただ感謝申しあげるばかりである。

(編集委員)

英文学評論 第二十五集

非売品

昭和四十五年三月三十一日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室

代表者 松 木 泉

印刷所

中西印刷株式会社

京都市上京区下立売通小川東入

発行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XXV March 1970

CONTENTS

Macbeth — Time and Being — *Yoichi Okada*

A Way of Looking at Dryden

— The Relation between Epic and Satire — *Takeo Yamamura*

The Revival of the Word 'Glee' meaning 'Joy' (or 'Song of Joy')—(1)

— In Blake's *Songs of Innocence* — *Senkichi Matsushita*

On Orestes Augustus Brownson's Criticism of Ralph Waldo Emerson's

Divinity School Address *Toshihiko Ogata*

The Novelist's Predicament Today *John Noone*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY